

C-2. 動詞語彙リスト

(1)配列

「活用の類」を優先している。

上二段・下二段は、「語の長さ」「活用の行」の順で優先して配列した。

四段は「活用の行」「語の長さ」の順で優先して配列した。

なお、活用の類の設定は、主としてデータソースの古典対照語彙表に従っている。

(2)データソースは、以下のとおりである。

古典対照語彙表 = 宮島達夫・中野洋・鈴木泰・石井久雄(1989)『フロッピー版古典対照語彙表』(笠間書院)

系井 = 系井寛一(1964)「九重町方言の動詞の語形表」『大分大学学芸学部研究紀要』2-4 (人文・社会科学)A集

金田一 = 金田一春彦(1974)『国語アクセントの史的研究 原理と方法』(塙書房)

大西 = 上記に対する大西の追加

小西 = 上記に対する小西の追加

(3)古典対照語彙表の番号

データソース古典対照語彙表の収録語に頭から付した通し番号である。同じ作業を行えば、古典対照語彙表のデータとリンクすることが可能になる。

(4)漢字表記は、基本的にデータソースに従っている。この表記により、語の意味がおおまかに把握できるであろう。

(5)アクセント類は、データソースの金田一に従う。

(6)俚言数は、『日本方言大辞典』の索引をもとにして次のように数えたものである。

1語形1として算出した。

見出しがあっても、親見出しがなく小見出しのみの語は0.5で算出した。したがって、数値に小数点以下の0.5という数字が現れている。

空欄のものは未調査のものである。

この俚言数により、当該の語の意味に対応する方言語形が現れやすいかどうかの目安が得られるであろう。